

会報

# 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第30号  
2012年11月12日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 D.C.会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

# 動労千葉 鉄建公団訴訟一解雇撤回・JR復帰へ 第1回控訴審へ 12月17日10時 東京高裁前に集合

## 階級的労働運動復権の出発点つくった11・4集会 日比谷野音に5800人



日比谷野外音楽堂で11月4日、国鉄闘争全国運動などの呼びかけで11・4労働者集会が開催されました。発言を紹介します。

私たちが労働者を取り巻く社会状況は激しさを増しています。その犠牲はすべて人民大衆に転嫁されているのです。この間、

### 組織拡大で労働者に希望と勇気を

高英男 (全日本建設運輸連帯労働組合 関西地区生コン支部副委員長)



多くの地域職場で闘いが継続されてきましたが、十分な戦線拡大をするには至っていません。その要因をしっかりとらえ、情勢を正確に分析し、戦術を検証することが重要です。

派遣・非正規労働者の増大やワーキングプアの増大は、闘う環境を厳しくしているのではなく、団結できる環境が広がっているところを見る視点が必要です。多数の労働者が派遣・非正規労働者とされ、闘うことしか生きられないと突きつけられています。多数の労働者が団結できる環境が生み出されているのです。現象面は困難に見えて

も反攻攻勢をかけられるチャンスがあることに確信を持ち、闘いを展開することが重要です。今後の闘い方は、まず共通する要求を組織すること、共通する戦術・闘い方を組織すること、共通する業種で共通する闘いをつくり出すことが重要です。多くの労働者が闘い方が分からず労働組合に絶望し、団結の機会を失っています。この集会

### 外注化闘争で階級的労働運動の復権

田中康宏 (国鉄千葉動力車労働組合委員長)



12年間にわたって組織の総力をあげて立ち向かってきた検修・構内業務外注化が強行されました。職場は悔しくて怒りがあふれています。だけど、私たちは負けていません。労働者の

団結はますます強くなっています。こんな外注化は絶対粉砕できると確信しています。国鉄分割・民営化以降、日本の労働運動はなすすべなく後退しました。僕は民営化から外注化というこの25年間の闘いを通して、労働者の団結した力は新自由主義攻撃に立ち向かえることを示したかったんです。闘う労働運動の復権は可能だと

### 解雇撤回・JR復帰 高裁署名運動

各界各層に広がる陣形に確かな手応え

### 年内1万筆に全力で取り組もう

9月末から始まった「動労千葉・鉄建公団訴訟、解雇撤回・JR復帰の判決を求めるための東京高等裁判所あて署名」は現在、200団体を超える署名が集まっています。この間は1日

も欠かすことなく毎日、署名用紙が入った郵便が届け、確かな手応えを感じています。署名の呼びかけ・賛同の陣形も全国各地・各界各層で広がっています。国鉄闘争関係をは

じめ、教組や清掃労組など、これまで長年にわたり1047名闘争に心を寄せてきた人びと。団体が続々と加わっています。動労千葉の6・29地裁判決に大きな注目を寄せ、あらためて

への参加機会を失っています。私たちの闘いが現状を打開する闘いの典型を示せていないことが大きな要因です。要求を基礎にした闘いを組織することこそ、労働者に勇気と希望を与えるのです。労働者が希望を持って闘いを全国の地域・職場で展開することを訴えて開会のあいさつとします。

### 大和田委員の遺志継ぎ国鉄闘争勝利を

中村吉政 (全国金属機械労働組合合同委員長)



本日の総決起集会には海外からの参加者を含め5800人の仲間が参加されました。本年は闘いの柱として、①反原発・反失業の国際連帯、②国鉄闘争・労働運動の再建、③福島・被災地を先頭とした反原発の闘い、④闘いの報告として職場地域から血のじむ闘いが披露(ひれき)されました。いずれの闘いも簡単ではありませんが、闘いによって敵の弱点を見いだし、団結すれば勝利できることが力強く報告されました。

今日の労働組合でストライキを打ち抜く組織は、本労働者集会に結集する組合以外ありません。来年はここに集まる数を倍にしましょう。そうした歴史が動きます。社会が変わります。われわれの未来をわれわれの手でつかみましょう。

1047名解雇撤回へ向けて闘いを呼びかけています。動労千葉鉄建公団訴訟において、解雇撤回・JR復帰の高裁判決をかちとることは、一昨年の1047名解雇撤回をめぐる政治和解を超えて、1047名闘争の勝利へ向け大きな展望をつくりだします。

1047名闘争に心を寄せ、ともに闘う気持ちをもった人びとは全国に膨大にいます。動労千葉の6・29判決の存在とその意義を知らせ、署名運動を提起することが急務です。署名運動はまだまったく始まったばかりです。国鉄闘争全国運動にとっても、運動的にも組織的にも明確な方針です。年内1万筆を目標に全国で署名運動を展開し、全国2000名へ全力を尽くしたいと思えます。よろしくお願いします。

(文責・事務局)

# 外注化阻止第二ステップへ

## 解雇撤回し必ずJRに復帰

中村仁(動労千葉争議団)

6月29日に自分たちの裁判の判決が出ました。われわれを名簿から外したのは不当労働行為だと裁判所が認定しました。不当労働行為だから解雇が撤回されています。これは本当はJRにいます。ただ解雇撤回はなりません。

## 労働者の怒り思い知らせる時だ

羽廣憲(国労小倉地区闘争団)

10月11日、鉄道運輸機構を相手取った東京高裁判決は、国家権力の意思丸出しの超反動判決



撤回を求める署名を全国の労働者、労働組合にお願いしています。現在、団体で200を越える署名が集まっています。万にしたらたきつけたらと思います。よろしくお願いします。

## 必ずJR職場に復帰する

渡辺剛史(動労千葉青年部)

10月1日の外注化阻止のため闘ってききましたが、残念ながら当該になってしまいました。悔しい思いで一杯です。

この間、日本も含めて、世界のみならずも多大なるご支援、ありがとうございます。この場を借りて、お礼を申し上げます。

## 闘えば情勢は変えられる

照沼靖功(動労水戸)

私たち動労水戸は8月24日から、4度のストライキを構成

「10・1外注化阻止! 強制出向絶対反対!」を掲げて闘い抜きました。

第2波ストと同日の8月28日に平成探の羽部さんが動労水戸に加入しました。

この4波のストで分かったことは、闘えば絶対にこの情勢を変えられるということです。

10月1日に外注化を強行されたことはとても悔しいです。残念です。しかし、この闘いはまったく負けてはいません。むしろ、「闘っても勝てない」「反対ばかり言っても仕方ない」と思

い込まされてきた青年労働者が決起したということ、そして何より、組合員の団結を守り抜き、ともに闘う仲間を獲得できたこと

いうことはとても大きな勝利です。外注化・非正規職撤廃の闘いは10月1日を境に新たなスタートを遂げました。動労千葉や動労水戸の先輩たちが先頭に闘ってきた「国鉄分割・民営化絶対反対」の25年間の闘いをここで

## 高裁でJR復帰の判決かち取る

葉山岳夫(動労千葉顧問弁護士)

さる6月29日東京地裁民事11部白石裁判長は、動労千葉の高石さん、中村さんたち9名が2004年12月に国鉄清算事業団に対して提起した解雇撤回、損害賠償裁判に対して判決を出しました。この裁判は国鉄分割

民営化反対闘争で解雇された国鉄労働者1047名に対する解雇撤回・JR復帰闘争の一環として闘ってきたものです。

国鉄闘争全国運動は、この政治和解が新自由主義による労働運動つぶしの反動攻撃であると

して1047名解雇撤回・JR復帰闘争を断固として継続し、

## 当たり前の労働組合を全国の職場に

伊藤賢(国鉄闘争全国運動呼びかけ人)

動労千葉・動労水戸などの外注化阻止闘争は、日本の反合理化闘争に新しい形を切り開いて

いる。これまで反合理化闘争は、合理化が強行されてしまったらそれで終わりという形になることが普通で、社会は問題を

忘れ去る。ところが今度の闘争は、外注化に伴う強制出向が強行されてそれで終わらない。本

当の闘争はこれからだ。組合は言う。だがこれは当然だ。反対してきたことが実現されると

終わらせてはいけない。ここから勝負なんです。今日の集会を、99%の労働者が、たった1%の資本を倒す闘いの出発点にしましょう。これからご支援、よろしくお願います。

めであった。今日ここに集まった私たちの課題は限りなく大きい。闘争を通じて私たちは新自由主義下の現実を目に見えるものにして

いる。「社会の現実には闘争がなくともうわかっていて」という人がいるだろう。しかしそうではないのだ。悲惨と苦しみの

現実には知られている。だがそこには同時に労働者の闘う意志と

力、自己への誇りがある。これを知らせることができるのは労働者自身の運動だけだ。

問題は、怒りを闘争に表したい、闘いたいと思っている労働者に「自分は何かことができる」と感じさせることだ。こういう希望を労働運動だけが生み出すことができる。

私たちはそういう運動をいま全力で展開している。労働者が手をのびせは届くところにある労働組合、その存在を感じさせることができる。労働者の闘う意志を社会の表面に引き出すことができる。関西生コンの組織拡大はそれをよく示している。

そしてこのとき社会全体は、労働者がただ打ちひしがれて苦しんでいるだけのものではないことを知るのだ。

私たちは労働運動がもつ意味をこの社会に回復しようとしている。それは労働組合としてなすべき当たり前のことをやるというだけのことだ。普通の労働組合の存在が労働者の心をど

れだけゆり動かすかを私たちは知っている。そういう労働組合を私たちは全国の職場につくり出そうとしている。その将来に私たちは確信を持つ。

私たちが確信を持つ。その将来に私たちは確信を持つ。